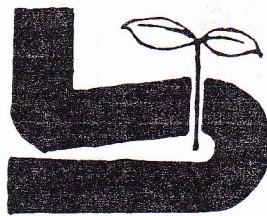


会報

556.9.16
NO.65



静かな環境を守り高速道路に反対する会

精リ強ク
助け合
話し合
民主的
自主的
努力・前進
家族を守り

ルート撤回へ
高速再検討
五輪整合を
公害はイヤ
環境を守れ
弱者にめろ
健康 オー

○会員増に協力しよう
○無理せず、さぼらず
○意見と運営案へ
○会報を読まよう

市長、市議会各党に全員バス陳情

胸に緑のリボン、139世帯418人の署名添え

「藤巻を通すな」「検討する」新聞テレビ報道

藤巻ルートの変更を求める全員陳情は、9月5日決行。本
市長はじめ市議会各党派に私たちの意向を伝え、市長は
「検討する」と答えました。自民党はじめ各党も「当初案を変え
ての藤巻ルートなので皆さんのお気持ちわかる。高速道路に
関する態度はまた別だが……」など、さまざまでしたが、私た
ちの要望に対しては、一応の理解を示していました。各新聞、NHK
テレビラジオも一様にこの陳情を報道しました。

この日、陳情の一行は午前10時40分、三重交通貸し切りバス
で藤巻町を出発。現地合流の方々も加わり、早川会長以下、
胸に緑のリボン（ルート変更、環境緑を守ろうと書いた）を着けて
9月市議会初日の市役所へ。総勢45人。陳情書と139世
帯418人署名の名簿一覽を持つての訪問でした。あせんの渡
辺市議長が全く多忙のため、最初、オー各委員会でお話を
させていただく口はありましたが、まず早川会長ら代表が自民
党市議団の会議席へ乗り込んで陳情、「もつとだ」の了承
を受けました。ついで全員の前へ、本山市長、助役、計画局職
員が到着。渡辺市議長が「突然の計画変更、弱い者いじめ
は許せない。党も承知している。私も政治生命をかける。藤巻を
通さない案にせよ。留保とは計画の白紙化のことだ。都市
高速道路をつくることと、藤巻ルートとは別問題のはず。私案とあ
えていうなら当初案に戻るか、東山公園内～平和公園口方面ル
ート」と激しい口調でぶちました。早川会長は陳情趣旨を①
～④にわたっておだやかながら熱を込めて説明されました。

本山市長は「検討する」とだけ答えたに止り、計画局職員は逃
げ腰で「留保は環状高針ICの計画未決定との関係、などと述
べましたが、会員から「藤巻を既定案とする役所的発想は安
易だ。元から練り直せ。新たな藤巻ルート環境アセスメント計画も
あるやのウツサを肉くが、藤巻ルートを前提とおそれらの諸作業許
せない」などの発言がありました。

このあと、全員で民社、公明、共産、社会各党を巡回陳情、早
川会長は市政記者クラブで報道陣と記者会見、さらに会からモ
部代表が環状問題での交渉に参加、陳情の一行は予定より
やや遅れはしましたが、再び貸し切りバスで藤巻町へ無事帰
りました。用意のお菓子は夏休み以後とあって効果、はとにか、皆
さんに車内配布しました。「藤巻健在！」の一日でした。

ご参加の皆さん、ご協力くださった皆さんに深く感謝いたします。

陳情での協力深謝

今度は隣接地へ働きかけ

9/11夜運営委開催

陳情終了後初の運営委は9月11日夜、早川会長以下8人が出席して
開き、陳情結果、加藤学連協会長の懇話、自治会関係、アンケート内
容での報告があり、「愛と噪とNOx 総量規制指定地域に力か
よ」との公害患者の会の陳情書に会として団体署名対応を決定、
隣接自治会へ改めて働きかけた手段方法にかつても協議した。
全員陳情については「参加者はほぼ満足の様子、一応の成果は
あった」との自己評価と「陳情は一過程、もつとがんばろう」との
反省がありました。次回は10月9日（金）7時半、消防詰所

広報・財務部会開くー陳情準備ご苦労さま

広報・財務部合同部会は9月6日10人が参加して開き、運営
の経過報告、全員陳情での感想など話し合い、財務部員から
は集金した8,9月分会費が提出されました。陳情はおおむね好
評。市議会女子職員から「こんなに大勢の奥様方がこらへた例は珍
しい」との声があった。なども披露されました。猛烈作業に深謝!

不在地主に 寄金

中村区名栗町1-12 安藤隆さんから2,000円。
礼状、領収書、最近の会報とお送りいたしました。

運営委員として思う

事務局担当 M・A

運営委員の一員として、会員の皆さんに推選されたときまず思
ことは、「うれし」と「責任の重さ」でした。

うれしとは、自身、輪審判の部長会のもと、事務局を担当し、それ
までの運動と比べべくもないもの、組織・運動の大きな後退を止
すに一年間取り組んできたことについて、会員の皆さんの推選をいた
だいたということ。

責任の重さとは、運動の経験も浅く知識も乏しい私が、オリーブ
クという高速道路促進剤をかかえ、会として、これまでの運動の結
論が出るかもしれない正念場であるこの一年の運動の推進役がな
まるかどうかという不安感。

そして現在は、運営委員に選ばれた以上は、推選された会員の皆
の期待に応える（自分も委員の一員である）のが私たちの責務であり、
会員の全員が一致できる、すなわち「藤巻町を高速道路が通らないで
ほしい」という気持ち（住民運動に限らず要求はそれぞれエゴから
の出發であり、それを否定することはできない）に応えることであり、
（自分の力以上のことはできないが）それを放棄することは「人」と
して失格ではないかと思いつ、精一杯努力をしているところです。
幸い、他の運営委員の方々は、知識・経験とも深い方が多いので、
そこで決まったことをやっていくという感じではあるのですが……。

「光りをともめ、みんなでガンバロー」

「会方針」運営委を支持

ルート変更 87.5%、政治手法 61.2%、自治会連帯 49.78%

緊急アンケート結果まとまる

陳情の準備作業たけなわの折「会方針アンケート」を実施したところ、大変ご協力いただき、運営毎では心から感謝しております。陳情内容との関係もあり、早急に皆さんの意向を確認したかったとの側面もあり、とくに広報・財務の皆さんにはご迷惑をかけました。

結果は右面をご覧のとおり「基本的には高速道路反対」だが「藤巻ルート反対で、変更要望」=運営毎の意向全面支持（不支持の）と出ており、陳情の趣旨ともおおむね合致しています。

アンケート結果分析 (数字の見方解説はいろいろです、各自ご検討)

設問の不十分さ、各足らずをまあおわびしますが、にもかかわらず、回収121(会員の大多数と一部会員外からのご意見)の好成績で、皆さんの関心の深さがうかがわれました。

向1では、高速道路賛成の方は見送らず(無回答の方と世のため人のためにエゴと張ったご意見は別として)、運動への参加方法について、あるいは成果についてさまざま一との様子があります。反対のため積極的に、という方より、やや消極的な方の数字が目立ちます。向1の傾向を反映してか、向2の結果は、今回、運営毎が打ち出した方針、意向を支持される方が圧倒的でした。「藤巻ルート反対、変更の要求一本で」というのが、皆さんの多くの本音であるかもしれないと推察いたします。その一方で運営毎信頼支持というより、運営毎任せという懸念がうかがえないでもありません。向3の分析はおざかしいです。「個々の政治家一辺倒は危険、従来の会のスローガンの浸透、などが「不偏不党(勝敗度外視)」に20%を集めたのでしうか。しかし、ここでも運営毎の意向(渡辺氏一辺倒やベタモーションではないが渡辺氏志向)が大きく支持されています。向4はさらにおおむね問題。でも「緊密化を図れ」が「心情的連帯」を含めて圧倒的多数です。「会」解消、自治会編入は9%にすぎませんでした。さらに詳細分析します。

ご意見の中には ①高速道路反対のスタンスを固め ②ルート案と会から具体的に示す ③自治会も高速問題に取り組んで当然 ④運動力低下の原因となることは避けよ(条件、政治家問題、対自治会関係など) ⑤アンケートの是非などありました。(運営委相乗勢)

柴原さん(9組)から貴重なご意見 ぜひ皆さんもどうぞ!

アンケート実施にも関連し柴原さん(9組)から貴重な意見書をおいただきました。公営防止運動の原則、自治会の役割と会との連帯、会の存在意義と性格、アンケートの工夫に関するものでした。運営毎では、ご意見および委員会へのご出席ご発言大歓迎です。都、柳川、兵庫(渉外連絡担当)森上、本井、池田(研究調査担当)南嶺、鈴木(広報財務担当)相原、高木、磯部、川崎(事務局)へご連絡を。

井戸水調査ご協力に感謝—発表の次号

井戸水調査につきご協力いただきましてありがとうございました。ただいま集計作業を終わり、9月18日の部会を経て、会報紙上で皆さんにご報告の予定です(調査)。

向1 「着席高速にはあくまでも反対」という意見があります。

- ① 反対のため全市で運動、これに参加する 11 (9.0%)
- ② 藤巻を拠点にリーダー役員となって運動する 2 (1.6%)
- ③ 反対だが行動は無理 66 (54.5%)
- ④ 反対が完全に成功するとは思えない 29 (23.9%)
- ⑤ その他 5 (4.1%)
- ⑥ 無回答 8 (6.6%)

向2 「高速反対はさておき藤巻を通るのは絶対反対」の説のありか。

- ① 運営毎の意向を支持する(会報と読んだ同感) 63 (52.0%)
- ② ルート変更には一定の条件をつけ、それが満たされない場合は運営毎に任せ 0 (0%)
- ③ 一定の条件づけは当然、折衝は運営毎に任せ 43 (35.5%)
- ④ 運営毎を支持しない。役員になつてリードする 0 (0%)
- ⑤ その他 3 (2.4%)
- ⑥ 無回答 12 (9.9%)

向3 「渡辺氏志向」について

- ① 勝敗は度外視しても不偏不党がいい 25 (20.7%)
- ② この際、ベタな手段なので賛成する 74 (61.2%)
- ③ 他の手段を提案する 1 (0.8%)
- ④ 運営毎の意向を支持しない。委員に代わす 0 (0%)
- ⑤ その他 9 (7.4%)
- ⑥ 無回答 12 (9.9%)

向4 「自治会」と「私たちの会」について

- ① 会は従来通り自治会とは心情的連帯 35 (28.9%)
- ② 自治会との緊密化を図れ。自治会の能力を高め 32 (26.4%)
- ③ 会と自治会に解消編入。自治会高速部会にお 11 (9.0%)
- ④ 会は現在のまま自治会高速部会を兼ねる形が対外 27 (22.3%)
- ⑤ その他 0 (0%)
- ⑥ 無回答 16 (13.2%)

加藤学区会長と協力依頼懇談 長村自治会長わすらわし、運営委代表同行

運営委員会では「ルート変更要求一本に絞る」の一環として、議員対策、学区および近隣各自治会対策を考えています。そしてまず長村自治会長とわすらわし、運営委代表が同行して9月2日夜、西山学区連絡協議会会長・区政協力委員長の加藤光治氏を訪問、懇談のうえ協力をお願いしました。加藤氏は「今度の話は一応評価する。立場上、個人的意見はいえない。皆さん自身が賛同者獲得の努力をすべきと思うが、藤巻町の意向、趣旨を藤巻町から学区役員会などの場で披露、説明する機会を提供することにやぶさかではない」との意向を示されました。

学区役員会で長村氏が「高速・藤巻」を説明

これに伴い、9月7日夜、西山小学校で南かした西山学区各自治会長ら役員参集の席上、再び長村自治会長とわすらわし、約10分間にわたって「高速道路問題と藤巻町、そして学区」に打ち説明とあいさつ、協力賛同のお願いをしていただきました。加藤会長はこの席でも司会のさい「それぞれ立場で藤巻の皆さんの主張を聞き、協力できる人はしてあげてほしい」と述べておられました。